

記者発表資料

平成23年6月8日
国土交通省九州地方整備局
筑後川河川事務所
筑後川ダム統合管理事務所

松原ダムの弾力的管理試験の実施について

農業用水の取水が増加する6月期は筑後川の水量が減少するため、河川環境への影響が懸念されます。

そこで6月11日から6月20日の期間において、松原ダムの貯留水（約600万m³予定）を筑後川へ補給することにより河川流況改善を図る、松原ダムの弾力的管理試験を実施します。

問い合わせ先

国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所

TEL0942-33-9131

管理課長 十時 信忠

国土交通省九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所

TEL0942-39-6651

管理課長 平井 新太郎

筑後川の河川環境改善を目指して

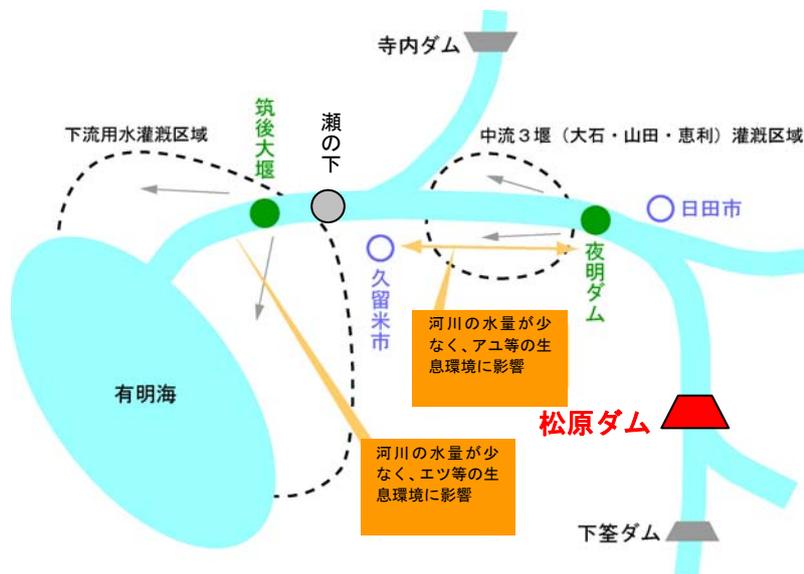
～松原ダム弾力的管理試験の取り組み～

弾力的管理とは？

ダムの弾力的管理とは、梅雨期等に洪水を調節するための容量の一部に水を貯留し、その水を使って、ダム下流の河川環境の保全に役立てるものです。松原ダムでは、この試験を平成13年度より行っています。

松原ダム下流の河川環境の課題

松原ダム下流では、6月期に広域的かつ多くの水利用が行われており、河川流況が悪化し河川環境に影響を与える状況が生じています。



6月中旬～下旬にかけての松原ダム下流の状況



これらの課題を解消するため、**試行的に弾力的管理試験を行っています**

松原ダムにおける弾力的管理試験

洪水調節を目的に持つ松原ダムにおいては、洪水期を迎えるにあたって洪水を調節するための容量（^{あきよりよう}空容量）を確保するため貯水位を低下させます。試験は、「空容量となっている洪水調節容量の一部」に貯めた水を放流して下流域の環境の保全に努めます。

【従来】

6月11日までに容量を確保する必要があり、ダム湖の水を放流し、水位を下げます

洪水を調節するための容量
(空容量)

このため、6月11日以降は、下流に十分な水量を補給できません

【弾力的管理試験】

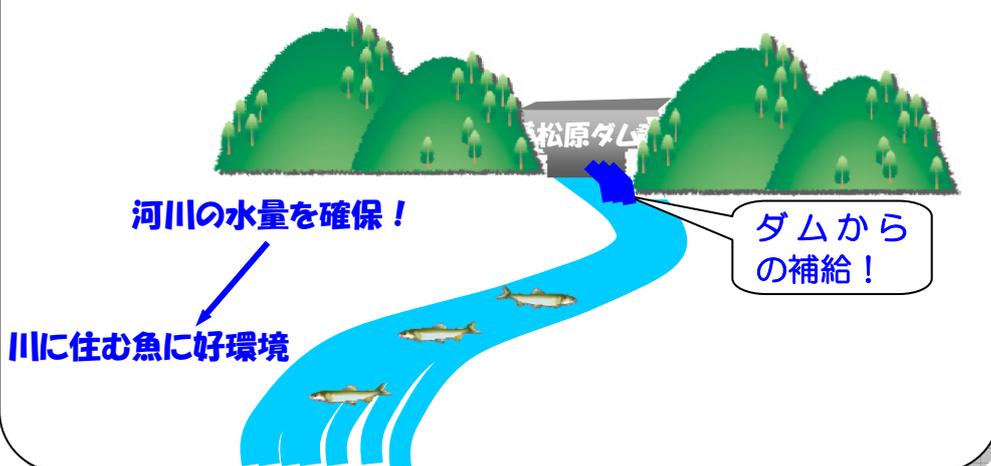
水位を下げる時期を6月11日から6月20日に遅らせませす

洪水を調節するための容量
(空容量)

弾力的管理試験の容量

6月20日までの間、流況を安定させる水を補給します。

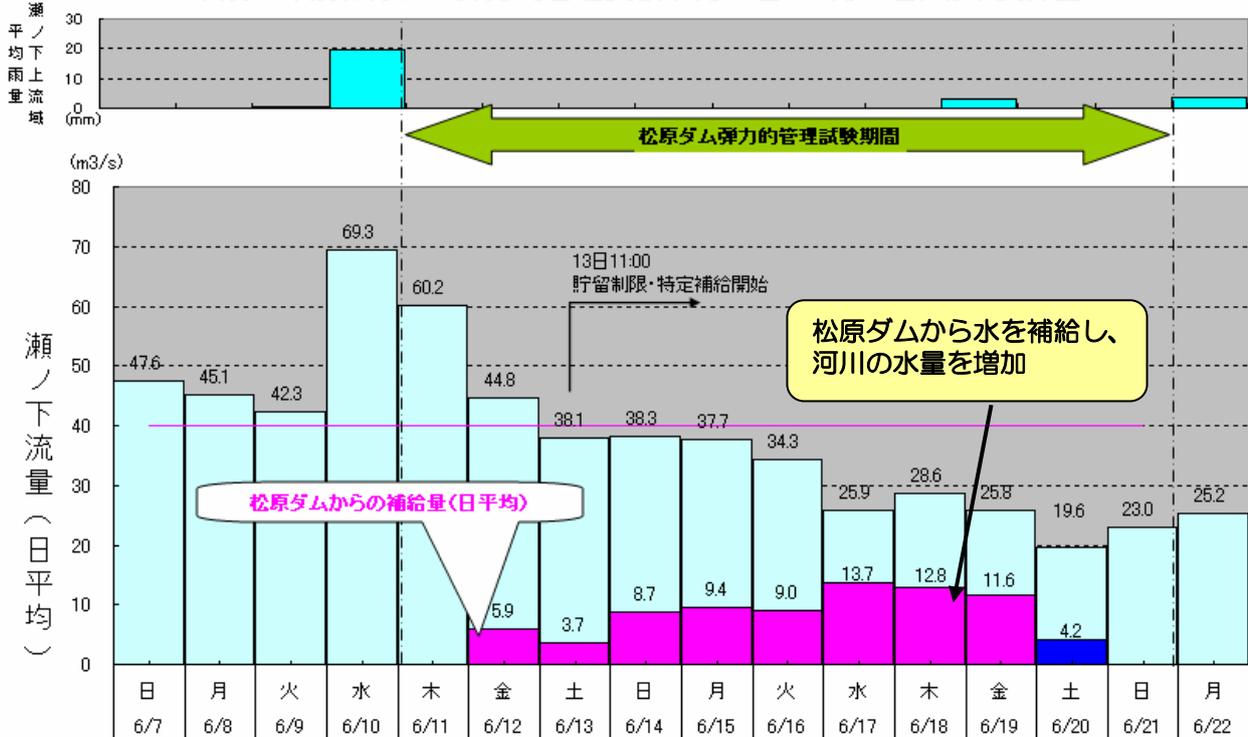
河川環境の改善



効果その1：下流河川の流況改善に役立ちました〔過去の事例〕

平成21年度では、農業用水の取水が集中した6月13日から19日において、松原ダムから活用放流を行ったことにより、河川の水量を保つことができ河川環境が改善されました。

平成21年度松原ダム弾力的管理試験(6月11日～6月20日)効果試算図



＜山田堰の状況＞

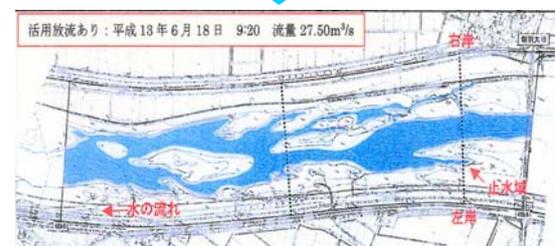
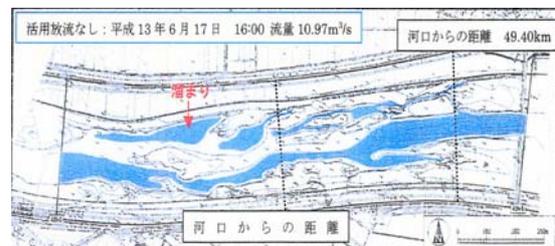
松原ダムからの補給により、堰全面に水が行き渡っています。



効果 その2：

流量の増加により生物に適した環境が増えました

活用放流を行ったことにより、瀬切れ（瀬が干出し、水面の連続性が途絶えること）がなくなり、水面の連続性が保たれるとともに、中州やワンド（本川と繋がっている溜まり）が保持され、生物の生息や生育に適した環境が保たれます。



弾力的管理試験では以下の点に注意して行っています

弾力的管理は、下流河川的环境改善に大きな効果があることが分かります。しかしながら、本格的な運用を行っていくためには、以下に示すような課題をクリアする必要があります。

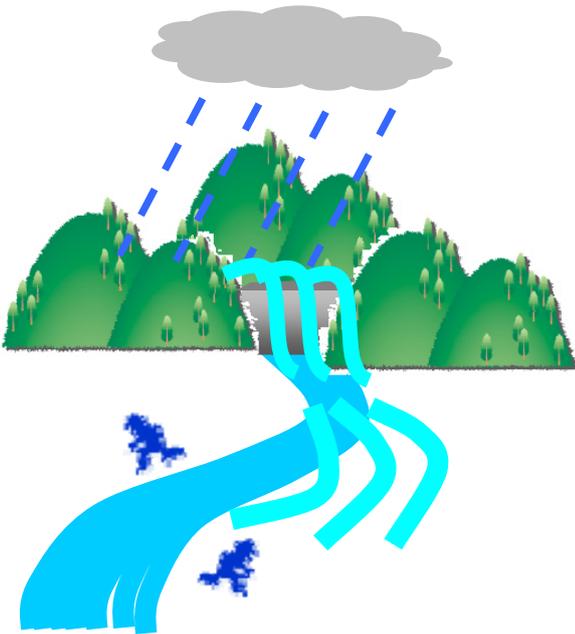
そこで引き続き弾力的管理試験を試行しながら各種データを観測・分析を行い、より安全なダム操作が行えるよう、調査・検討を行っていきます。

①洪水の発生が予想される場合は、洪水が来る前に貯留された水を事前に放流しなければなりません。

②事前の放流においては、ダム下流の河川利用者の安全が確保されなければなりません。

③管理体制の整備が必要です。また、関係者の理解と協力が必要です。

水位が高いままだと...



降った雨を十分に貯めることができず、危険！

雨が降ることを予測して徐々に水位を下げる！



下流での河川利用者の安全が確保できるように徐々に放流します！

国土交通省 九州地方整備局

筑後川河川事務所

TEL:0942-33-9131(代表)

筑後川ダム統合管理事務所

TEL:0942-39-6651(代表)